

今月の
テーマ

カード利用と問題点の考察

いよいよ消費税は10%の大台に上り、駆け込み需要の反動から消費の冷え込みを抑えるため、政府はあの手この手の策を打って出た。キャッシュレスのポイント還元もその一つで、急速にカード利用が増えているようだが、皆さんいかがだらうか…。

キャッシュレス決済でのPOINT還元を貰く使いこなすと、増税後の購入の方がお得になりますが、消費の落ち込みは5%→8%への増税の時よりも大きく出ているという。POINT還元の効果はなかったのだろうか…？

カード社会と言われて久しくなるが、熟年のご同輩の皆さんには未だに浸透しきっていない。クレジットカードさえ信用しきれていないのに、「QR決済」なる訳のわからないような“モジャモジャ”での決済も登場した。モジャモジャに何が書かれているかを読み取ろうとしたってわかる訳がない。今回は、モジャモジャのことは寄せといて、クレジットカード(以下クレカ)の利用について考察することにした。

一人で何枚も保有し財布のポケットに収まりきらずに、カードケースを利用している方も少なくない。何かと便利なクレカではあるが、手軽な反面、使い方を誤るとトラブルに巻き込まれたり、損害を被ったりと損失を招くことがあるので注意が必要だ。クレカを利用しない方の中には、“怖いもの”と決めつけ、警戒するがあまり現金主義を通している方もいる。しかし、それはそれで盗難やひったくりなどの危険もはらんでいるから注意が必要だ。

私自身、日常での決済(支払い)は、小銭で買うような物以外はほぼクレカで行っている。キャッシュレス決済は、もう後戻りできないところまで来ているし、実に便利でもある。正しい知識さえあれば、快適なこと間違いなしだ。

- 【補償される場合】
- ①財布を落としたらカードを悪用された。
 - ②財布をスリに盗まれてしまった。
 - ③自宅に泥棒が入り、カードが盗まれた。
 - ④同僚や友人にカードを悪用された。
 - ⑤スキミング詐欺に遭った。
 - ⑥フィッシング詐欺に遭った。
 - ⑦通販サイトからカード情報が漏洩した。
 - ⑧海外で勝手に使われていた。
 - ⑨お店の人が二重に決済していた。

これらは被害にあった場合でもほぼ問題なく補償される。では一体だれが支払うのか…？カード会社がかかるのではなく、保険会社が負担することになっている。日本国内で発行されるカードには盗難保険がついており、現金よりも安心・安全な決済手段と言える理由の一つだ。カードの保有をためらつている方も納得していただけると思うのだ。しかし、本人の管理に重大な過失など

カード利用を控えている多くの方が、紛失や盗難による不正利用の被害を心配している。しかし、カードの方が現金を持ち歩くよりも安全であるとも言える。現金が盗難にあうと犯人が捕まらないと戻つてこないが、カードの場合は盗難にあってサインを真似され不正利用された場合でも、本人に重大な過失がない限り補償を受けられるようになっている。一定の管理さえ怠らなければ現金よりも安心なのだ。

つぶやき
がんちゃんの

生活に何かと役立つ連載コラム

生活知恵袋

せいいかつちえぶくろ

Vol. 127



こちら

保険と暮らしの相談センター

あなたの夢の実現へのお手伝い!!

相談
メニュー

- 家計の総合診断(ライフプラン)
- 保険加入・見直し(生命保険・損害保険)
- 住宅取得、住宅ローンの見直し
- 子どもの教育資金計画
- 年金・老後資金計画

相談料は
無料です!!

TLS

total life support

募集代理店

株式会社
トータルライフサポート

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

●営業時間／9:30～18:30(土・日・祝9:30～17:00)

●定休日／水曜日

TEL 018-827-7611

Fax 018-827-7610

URL <http://tls-akita.co.jp>



詳細はホームページでも
ご覧いただけます。



があつた次のような場合は補償の対象外とされる場合があるので注意してほしい。

【補償を受けられない場合】

①裏面にサインがされていなかつた。

②暗証番号が記載されたものを一緒にしていた。

③暗証番号を分かりやすい生年月日などにしていていた。

④家族が勝手に持ち出し利用した。

● その他の特典

一口にクレカと言つても、会社によって様々な特典があり、その差は大きい。

①旅行傷害保険がついている

②年会費がかからない。

③ホテルや施設で割引や優待を受けられる。

④利用額に応じたポイントが付く。

⑤マイレージポイントが付く。

これらの特典などはスタンダードなものであるが、ポイントの還元率や優待サービスの中身には、それぞれに特徴がある。自分の利用の仕方につきたいものだ。

○○とハサミは使いよう」と言つが、ハサミに限らず同じものでもいかに賢く使いこなすかで、受けられるメリットは大きく左右する。

● カードの会費に注意

買い物の際にカードを作つてもらえば割引や優待が受けられるとの説明を受け、ならばとばかりに安易にカードを作成し、「あれよあれよ」という間に枚数が増えてしまったという方も少なくない。もはや所有するカードの枚数すら把握していない方もいるくらいだ。カード会社によつては年会費のいらないものもあるが、多くの場合千数百円程度の年会費がかかる。10月からは消費税も10%になり、負担も大きくなっている。たかが千数百円といえども枚数が多くなると馬鹿にならない。わずかのメリットにつられカードを作成し、年会費を延々と払い続けることはポイント貧乏になりかねない。利用の少ないカードはサッサとリストラをするべきだ。

● リボ払いに注意!

クレカ利用額には一定の枠があり、その中には「リボ払い枠」や「キャッシング枠」が設定されている。キャッシングはその名の通り、キャッシングカードでの引き出しのように現金が出てくる。しかし、これは「似て非なるもの」、キャッシングカードでの現金引き出しは預貯金の残高の中から自分のお金を使うに過ぎないが、一方キャッシングは高利の借金である。返済方法は「一括払い」や「リボ払い」を選択することになる。さて、リボ払いはどうだろうか? カード会社の説明を見ると、なるほど無理なく計画的に返せるのであれば便利なのか…?いやいや、とんでもない。れっきとした借金であることに気づかない方もいる。これにハマつてしまふと借金地獄に陥りかねない。私は決して手を出してはならないものと考えているが、次にその理由を挙げてみよう。

- ①キャッシングよりも手数料が高い(15.0%→18.0%が相場)
- ②支払額が一定だけに安易に利用してしまう
- ③利用が膨らみ危機的状況になつても気づきにくい
- ④どの商品をいくら(元利合計)で買ったかもわからぬ

では何故に問題なのか? 毎月の返済額が一定なので利用残高が多くなつても気づきにくく、気づいたら限度額いっぱいに達してしまう。利用額の割に返済額が少ないため、返済された金額の大半が利息部分に充當され、毎月返済しているのに一向に残高が減らない自転車操業になつてしまつからだ。リボ払いの最も恐ろしいところは、知らず知らずの内に泥沼状態になつていても危機感を抱きにくいという点だ。一旦ハマつてしまふと抜け出せなくなる、まさに「アリジゴク」だ。因みに1年物の定期預金の金利は0.01%であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利は1500倍であるのに対し、15.0%の金利

仮に50万円の上限一杯に達した場合、返済額を1万円の定額で払つた場合設定されている。キャッシングはその名の通り、キャッシングカードでの引き出しのように現金が出てくる。しかし、これは「似て非なるもの」、キャッシングカードでの現金引き出しは預貯金の残高の中から自分のお金を使うに過ぎないが、一方キャッシングは高利の借金である。返済方法は「一括払い」や「リボ払い」を選択することになる。さて、リボ払いはどうだろうか? カード会社の説明を見ると、なるほど無理なく計画的に返せるのであれば便利なのか…?いやいや、とんでもない。れっきとした借金であることに気づかない方もいる。これにハマつてしまふと借金地獄に陥りかねない。私は決して手を出してはならないものと考えているが、次にその理由を挙げてみよう。

お支払い回数	お支払い額	お支払い元金	手数料 / 利息	元本残額
1	10,000	3,750	6,250	496,250
2	10,000	3,797	6,203	492,453
3	10,000	3,845	6,155	488,608
4	10,000	3,893	6,107	484,715
5	10,000	3,942	6,058	480,773

返済シミュレーション
ご利用金額
手数料・利率 (実質年率)
お支払い内容
毎月お支払い金額